

福岡市の環境に関するトピック

- 1 温暖化対策、脱炭素社会
- 2 ごみ減量対策、循環型社会
- 3 生物多様性

1 温暖化対策、脱炭素社会

1. 福岡市地球温暖化対策実行計画

(1) 計画改定の趣旨

福岡市では、2016（平成28）年12月に、第四次となる「福岡市地球温暖化対策実行計画」を策定し、「低炭素のまちづくり」に向けて取り組んできましたが、近年の猛暑や豪雨などの気象災害の激甚化、パリ協定を契機とした国内外の脱炭素の潮流を踏まえ、「脱炭素社会の実現」に向けた取組みを積極的に推進するため、2022（令和4）年8月、「福岡市地球温暖化対策実行計画」の改定を行いました。

(2) めざす姿

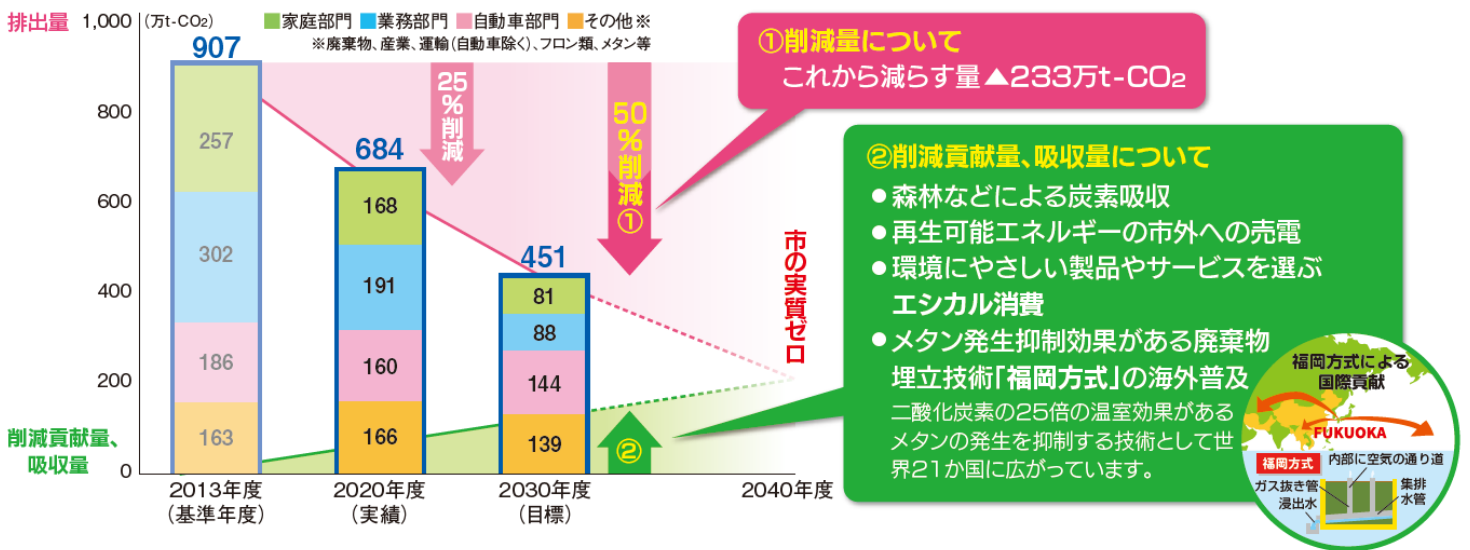
カーボンニュートラルを実装した都市をめざして
 【チャレンジ目標】2040年度温室効果ガス排出量実質ゼロ

(3) 2030年度の目標

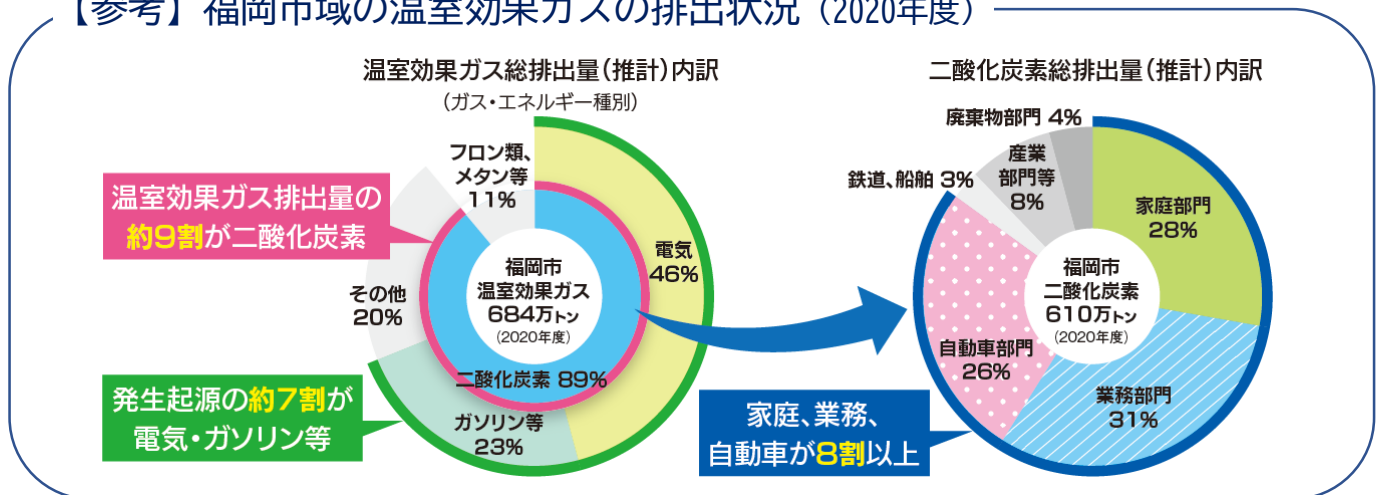
目標① 市域の温室効果ガス排出量: **50%削減**

目標② 市外への温室効果ガス削減貢献量、吸収量: **100万t-CO₂**

※基準年度:2013年度 計画期間:2022~2030年度
 ※対象とする温室効果ガス:地球温暖化対策推進法第2条第3項に規定されている7種類



【参考】福岡市域の温室効果ガスの排出状況（2020年度）



1 温暖化対策、脱炭素社会

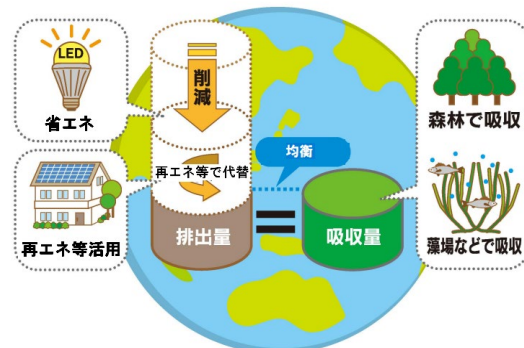
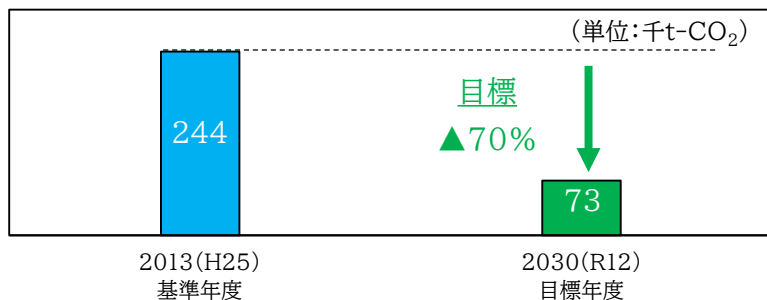
2. 福岡市役所地球温暖化対策率先実行計画

(1) 計画策定の趣旨

「脱炭素」へと向かって温暖化対策を総合的・計画的に推進し、「カーボンニュートラルを実装した都市」をめざすうえでは、福岡市役所自らの事務・事業においても、取組みを強化していく必要があるため、2022（令和4）年3月に「福岡市役所 地球温暖化対策率先実行計画」を策定しました。

(2) 計画の目標

「2030(令和12)年度にエネルギー起源CO₂排出量を
70%削減(2013年度比)」



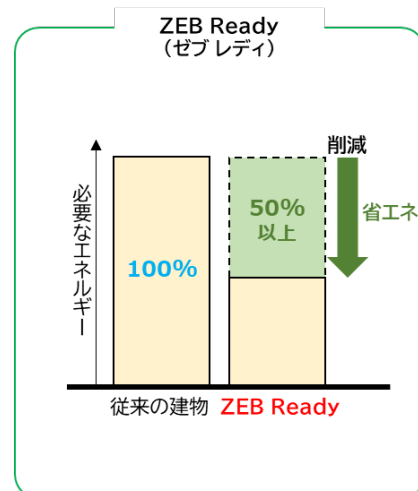
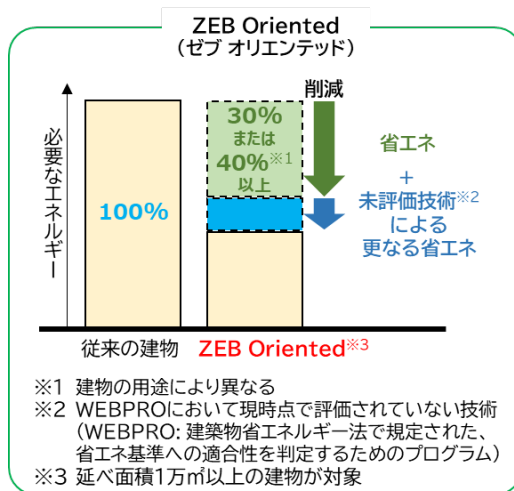
カーボンニュートラルのイメージ

(3) 目標達成のための主な取り組み内容

① 市有施設の省エネ性能の向上 (ZEB化※):

・今後予定する新築建築物については、原則、**ZEB Oriented**相当以上の性能とし、学校施設、庁舎、福祉施設については、原則**ZEB Ready**相当以上となることをめざします。

※Net Zero Energy Building(ネット・ゼロ・エネルギー・ビル)の略称で、建物で消費する年間の一次エネルギーの収支をゼロにすることを目指した建物



ZEBの定義 (ZEB Oriented、ZEB Ready) 出典:環境省HPより作成

② 再生可能エネルギーの利用推進:

・自家消費を主目的とした太陽光発電設備を導入・拡大し、2030(令和12)年度までに、設置可能な施設等の約**50%以上に設置**します。
・市役所業務で調達する電力を、**再エネ由来電力に切り替**えていきます。



太陽光発電設備の設置イメージ

③ 庁用車の脱ガソリン車への切替:

・新規導入または更新時には、**電気自動車・プラグインハイブリッド自動車・燃料電池自動車の優先的な導入**を検討し、脱ガソリン車への切替を進めます。



燃料電池自動車水素ステーション

1 温暖化対策、脱炭素社会

3. 市の取組み

福岡市では、脱炭素社会の実現に向けて各種取組みを実施しています。



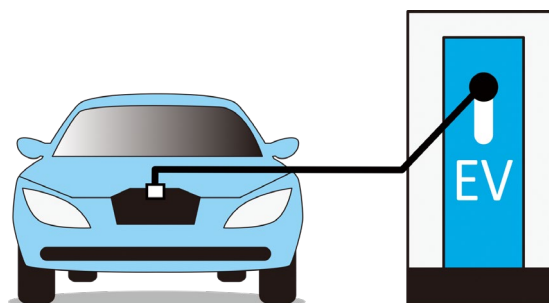
■ECOチャレンジ応援事業

「ECOチャレンジ応援事業」という脱炭素行動を応援する取組みを行っています。環境に配慮したエシカル消費、省エネ家電の購入、再生可能エネルギー由来電力の購入等のエコアクションに取り組んだ方へ、交通系ICカードのポイントを付与しています。



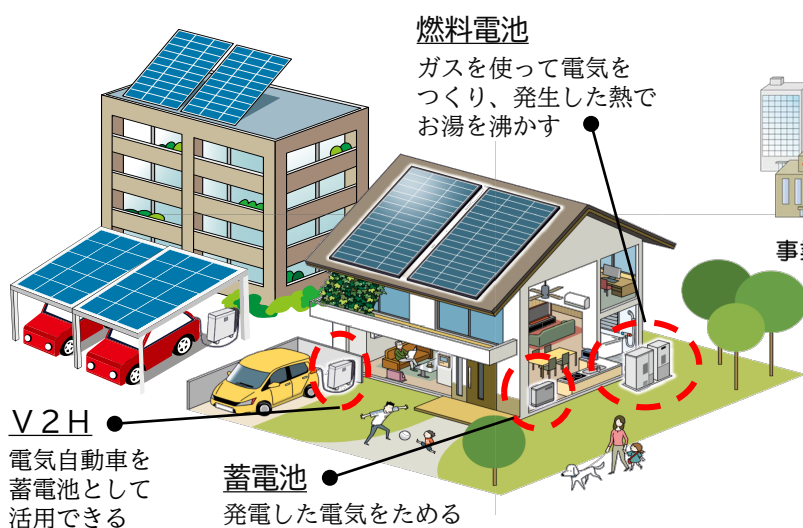
■次世代自動車の普及促進

電気自動車・プラグインハイブリッド自動車・燃料電池自動車の購入経費や、急速充電設備設置経費の一部を助成しています。



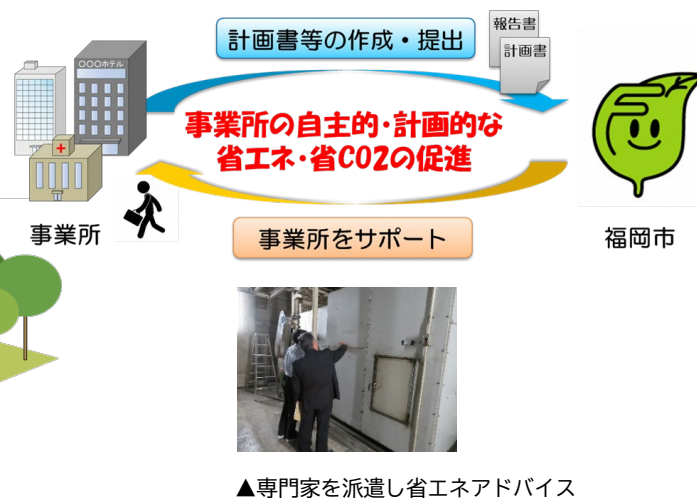
■住宅用エネルギーシステム導入促進事業

再生可能エネルギーを活用したり、省エネルギーにつながる設備を設置する際の費用の一部を助成しています。



■事業所省エネ計画書制度

省エネ計画書を提出した事業所に対し、市がアドバイザー派遣等の支援を行うことで事業所の省エネ・省CO2を促進しています。



■メガソーラー発電の導入

市有施設において、リース方式、土地貸し方式により大規模太陽光発電を導入しています。

施設	発電開始	発電出力
大原メガソーラー発電所（埋立場内）	2013年2月	1,000kW
蒲田メガソーラー発電所（埋立場内）	2014年3月	1,000kW
青果市場「ベジフルスタジアム」	2016年2月	1,000kW
水処理センター（西部・新西部）	2016年4月	2,320kW
蒲田第2メガソーラー発電所（埋立場内）	2019年11月	1,199kW



2 ごみ減量対策、循環型社会

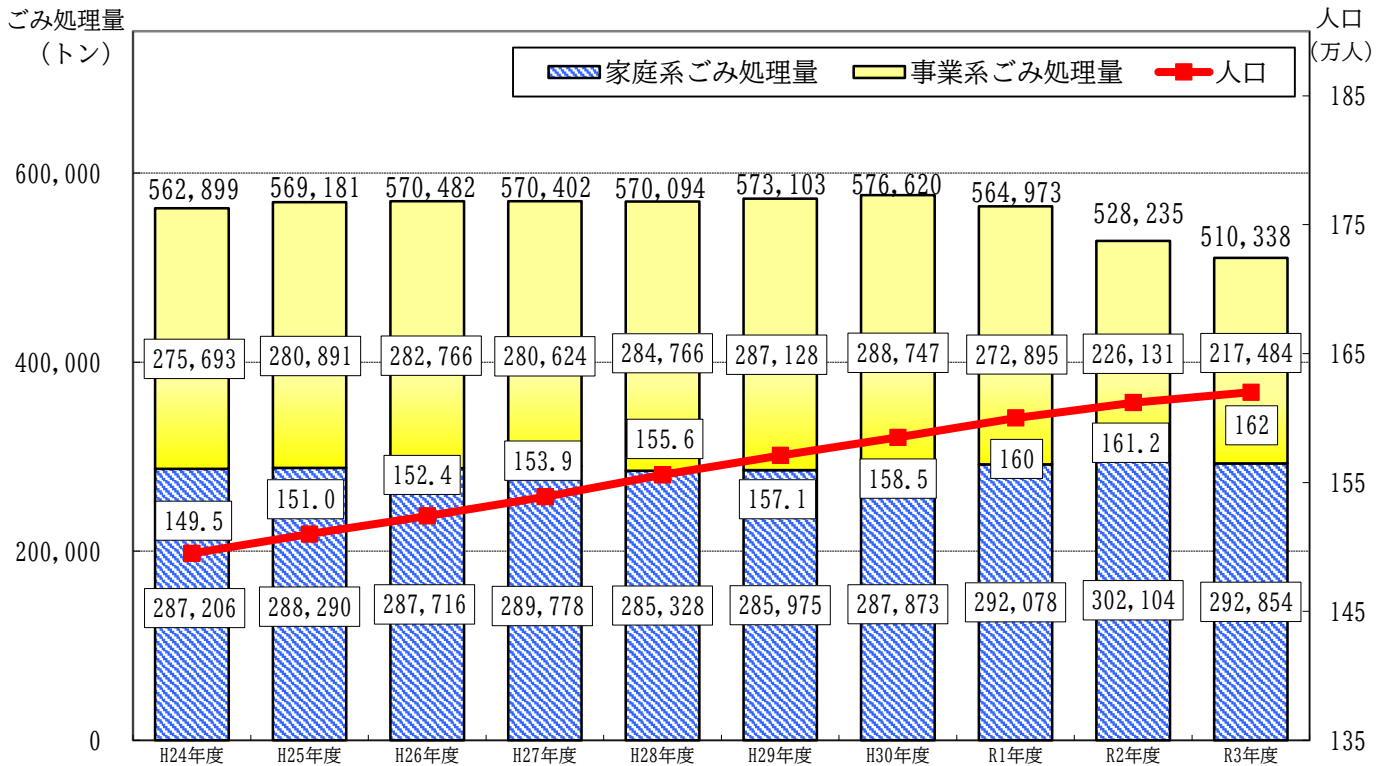
福岡市の廃棄物部門における二酸化炭素排出量は年間約24万t-CO₂（2020（令和2）年度時点）で、全体の約4%を占めています。

その内訳は家庭や事業所から出された化石燃料由来のプラスチックごみ等の焼却に伴うものとなっており、福岡市では、発生抑制と再使用の2Rに重点を置いた、3Rの取組みを推進しています。

1. ごみ処理の状況

(1) ごみ処理量の推移

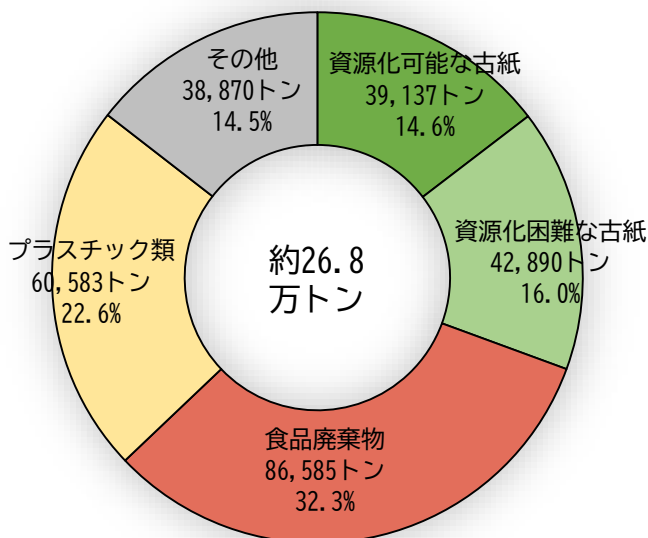
福岡市の人口は増えていますが、ごみ処理量については、新型コロナウイルス感染症の影響や、事業系古紙の分別義務化の効果などもあり、ここ数年、減少傾向が続いています。



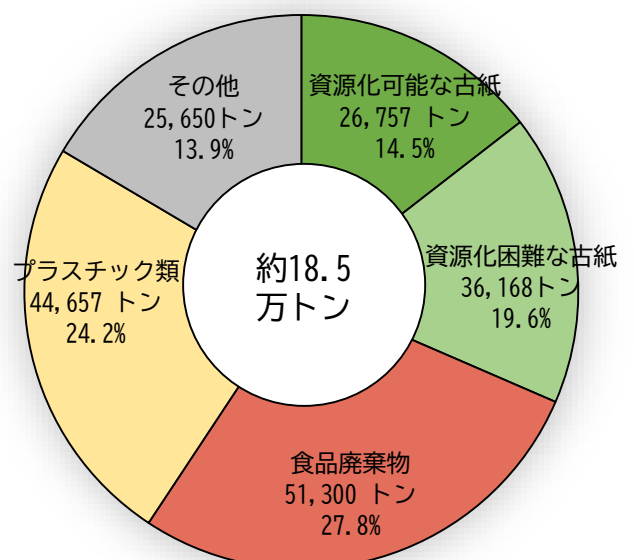
(2) 可燃ごみの組成分析

可燃ごみのうち、古紙・食品廃棄物・プラスチックごみが多くの割合を占めています。

家庭系可燃ごみ組成（令和3年度）



事業系可燃ごみ組成（令和3年度）



2 ごみ減量対策、循環型社会

2. プラスチックごみ対策

(1)「プラスチックに係る資源循環の促進等に関する法律」が施行

令和4年4月に施行されたこの法律は、海洋プラスチックごみ問題や気候変動問題等への対応を契機に、国内におけるプラスチックの資源循環を一層促進する重要性が高まっていることを踏まえ、あらゆる主体においてプラスチック資源循環等の取組みを促進することを目的としています。

プラスチックごみの発生抑制や代替素材転換等の取組みは、プラスチックごみの減量だけでなく、化石由来資源の使用削減や、プラスチックごみ焼却に伴うCO2の削減により、脱炭素社会の実現にもつながるものです。

(2)市の取組み

①プラスチック製品回収モデル事業

令和4年5月から区役所・市民センター等9か所の公共施設の資源物回収ボックスにおいて、「プラスチック製品回収モデル事業」を実施しており、プラスチックの効果的なリサイクル体制の構築に向けた課題検証を進めています。

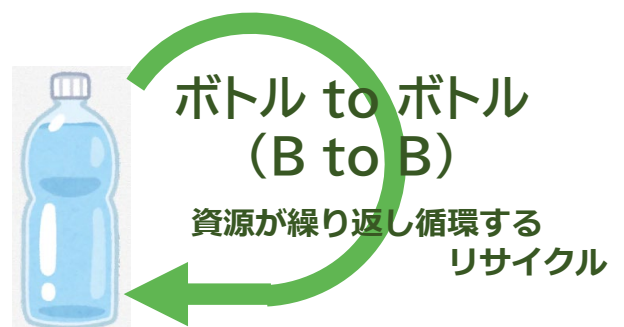


②ボトルtoボトル(BtoB)リサイクル

ボトルtoボトルリサイクルとは、使用済みのペットボトルを原料として、新たなペットボトルを製造するリサイクル手法です。

使用済みペットボトルを繰り返しリサイクルすることで、ペットボトルの製造工程における化石由来資源の使用削減効果が大きいとされています。

福岡市においても、効果的な資源循環を目指し、令和4年度から市内の家庭から回収したペットボトルの約半分をボトルtoボトルリサイクルする取組みを試行的に実施しています。



3 生物多様性

1. 生物多様性について



(1) 生物多様性とは

生きものたちの豊かな個性とつながりのこと。地球上の生きものは 40億年という長い歴史の中で、さまざまな環境に適応して進化し、動物や植物、昆虫、魚類など、3,000万種ともいわれる多様な生きものが生まれました。これらの生命は一つひとつに個性があり、全て直接的に、間接的に支えあって生きています。

(2) 生物多様性の恵み

私たちは生物多様性がもたらす自然の恵みから食べ物やエネルギー、衣類、薬の原料などを受けとっています。また、森は二酸化炭素を吸収し、酸素をつくり、災害から人間を守ってくれています。



自然のめぐみ
(環境省生物多様性
ウェブサイトより引用)

(3) 生物多様性に迫る危機

生物多様性から得られる多くの恵みに依存した経済活動、社会活動を行っていますが、生物多様性は人間の暮らしの影響により失われつつあります。

【生物多様性に関する問題を引き起こす原因】

■開発

道路や住宅などを作るために生きものすみかが壊されています。



■管理不足

雑木林などの管理不足や利用されなくなった農地の増加などによりニホンジカなどが増え、自然に悪影響が出ています。



■外来種

人間によって持ち込まれた生きもの(外来種)がもともといた生きもの(在来種)を食べたり、すみかを奪ったりしています。



■地球環境の変化

人間の生活が原因の地球温暖化などにより生きものが危機にさらされています。



3 生物多様性

2. 国内外の動き

2022年12月にカナダ・モントリオールで、「生物多様性条約第15回締約国会議（COP15）」の第二部が開催され、2010年にCOP10で採択された「愛知目標」に代わる、生物多様性の新たな世界目標として、「昆明・モントリオール生物多様性枠組」が採択されました。

枠組では、2050年までの「自然と共生する世界」の実現に向け、生物多様性を回復軌道に乗せるための行動を各国が2030年までに取ることとし、陸域と海域の少なくとも30%以上を保全する「30by30目標」や、ビジネスにおける生物多様性への影響評価・情報公開を促進することなど、23項目の2030年ターゲットが掲げられています。

3. 市の取組み

(1) 「生物多様性ふくおか戦略」について

100年後も豊かな自然と共生し、その恵みに支えられ、命をつなぐ未来都市「ふくおか」を目標として、多様な生きものとその生息地である自然環境の保全・再生・育成に取り組んでいます。

(2) 主な取組み

福岡市では、市民や事業者、団体の皆さまとともに、生物多様性の保全に向けた取組みを推進しています。

【地域での取組み】

■ふくおかレンジャーの育成

自然の大切さ、楽しみ方を伝えていく人材となる『ふくおかレンジャー』の育成に取り組んでいます。



地域の身近な公園での樹木観察
(ふくおかレンジャーによる企画・運営)

【森での取組み】

■森の恵み体験活動

NP0団体等と共働し、森の機能・特徴を学び、恵みを体験する活動を実施しています。



水源林ボランティアとの共働による間伐体験

【海での取組み】

■里海保全再生活動

地域住民や大学等と共働して、カブトガニの保全活動や環境学習などを実施しています。

■干潟の生きもの調査

市民や学生と共働して干潟生物調査を実施しています。



干潟での生きもの探し



カブトガニ

ふくおかエコツアーパンフレット

福岡市の身近な自然や生きものの魅力を楽しめるコースやスポットなどを紹介しています。(Vol.1と2、海編・干潟編の4冊があります)

